

第

3

章

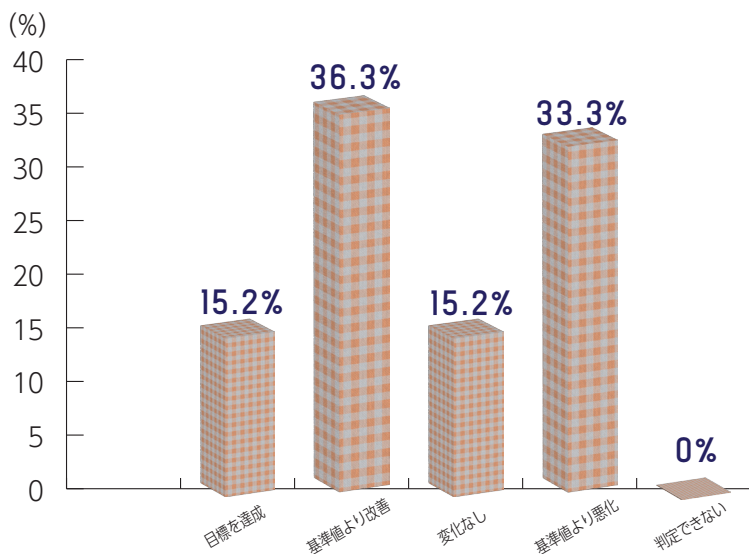
第1次の総括

豊橋市歯科口腔保健推進計画（第1次）の 総括

1 最終評価

計画目標の達成状況

| 判定 | 判定基準 | 目標達成率 | 指標数 (33) | 割合 |
|----|---------|-------------|----------|-------|
| A | 目標を達成 | 100%以上 | 5 | 15.2% |
| B | 基準値より改善 | 5%以上 100%未満 | 12 | 36.3% |
| C | 変化なし | -5%以上 5%未満 | 5 | 15.2% |
| D | 基準値より悪化 | -5%未満 | 11 | 33.3% |
| E | 判定できない | | 0 | 0.0% |



目標値に達した
+ 改善傾向にある
51.5%

悪化している
33.3%



(1) 乳幼児期における健全な歯と口の育成

| 目標項目 | | 目標 | 基準値 H28年度 | R4年度 | 達成状況 | |
|------|-------------------------------------|--------------------------|--------------|-------|-------|---|
| ① | 3歳児のむし歯のない者の割合の増加 | 3歳児 | 90% | 82.4% | 90.7% | A |
| ② | 保護者による仕上げみがきがされていない 1歳6か月児の割合の減少 | 1歳6か月児 | 5% | 6.3% | 5.6% | B |
| ③ | 3歳児で不正咬合が認められる者の割合の減少 | 3歳児 | 10% | 16.0% | 20.1% | D |
| ④ | フッ素洗口を実施している施設の割合の増加 | 保育園・幼稚園 認定こども園 小学校 | 100% | 83.6% | 58.6% | D |
| ⑤ | むし歯が感染症であることを知っている保護者の 割合の増加 | 4か月児の保護者 | 100% | 90.6% | 95.6% | B |
| ⑥ | 2歳児歯科健康診査受診率の向上 | 2歳児 | 65% | 57.0% | 51.9% | D |

現状

- ・ むし歯のない者の割合は、目標値を達成したが、不正咬合が認められる3歳児の割合は悪化
- ・ むし歯が感染症であることを知っている保護者の割合は改善傾向にある
- ・ 感染症拡大等の社会情勢の変化により、フッ素洗口を実施している園の割合及び2歳児歯科健診受診率が悪化

主な取り組み

【行政】

- ・ 歯科健診時に、仕上げみがきの重要性やおやつについてのリーフレットを活用し、口腔衛生、口の発達についての保健指導を実施
- ・ 母子健康手帳交付時に、口腔衛生について指導や啓発を実施
- ・ 不正咬合を含めた歯科疾患の予防のために、歯と口の発達に合わせた健康教育を実施

【地域・団体】

- ・ 歯科健康教育や保健指導、相談を一部の園で実施
- ・ 園で使用できる保健指導用媒体の作成を実施

課題

3歳児のむし歯のない者の割合は増加傾向にありますが、感染症拡大等の社会情勢の変化により、フッ素洗口を実施する施設割合が減少したため、今後のむし歯抑制効果への影響について注視していくとともに実施施設を早期に回復する必要があります。

(2) 学齢期におけるむし歯と歯肉炎の予防

| 目標項目 | | 目標 | 基準値 H28年度 | R4年度 | 達成状況 | |
|------|---|--------------------------|--------------|-------|-------|---|
| ① | 学校歯科医の支援のもと、歯・口に関する健康教育を実施している小学校の割合の増加 | 小学校 | 100% | 92.3% | 78.8% | D |
| ② | 小学校3年生における第1大臼歯がむし歯でない者の割合の増加 | 小学3年生 | 95% | 90.7% | 92.9% | C |
| ③ | 中学1年生のむし歯のない者の割合の増加 | 中学1年生 | 77% | 74.7% | 83.3% | A |
| ④ | 中学3年生で歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少 | 中学3年生 | 5% | 6.7% | 3.8% | A |
| ⑤ | むし歯が感染症であることを知っている者の割合の増加 | 小学生 | 50% | 33.5% | 40.7% | B |
| | | 中学生 | 50% | 23.6% | 32.3% | B |
| | | 高校生 | 50% | 24.8% | 35.1% | B |
| ⑥ | 甘いおやつを1日3回以上食べる者の割合の減少 | 小学生 | 5% | 7.9% | 12.0% | D |
| | | 中学生 | 5% | 9.3% | 11.6% | D |
| | | 高校生 | 5% | 12.9% | 10.4% | B |
| ⑦ | フッ素洗口を実施している施設の割合の増加(再掲) | 保育園・幼稚園 認定こども園 小学校 | 100% | 83.6% | 58.6% | D |

| | |
|--------|---|
| 現状 | <ul style="list-style-type: none"> ・ むし歯のない者の割合や歯肉に炎症所見を有する者の割合は目標値をほぼ達成 ・ 感染症拡大等の社会情勢により、フッ素洗口を実施している施設の割合及び健康教育を実施している学校の割合が減少 ・ むし歯が感染症であることを知っている者の割合は改善傾向 ・ 甘いおやつを1日3回以上食べる者の割合は、小・中学生が増加 |
| 主な取り組み | <p>【行政】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出前講座や学校保健委員会で、特に第1大臼歯の役割や、むし歯、歯肉炎予防における有効な歯みがき方法について保健指導や健康教育を実施 ・ 小学3年生を対象に「みんなの歯のノート」を配付し、歯と口の健康について啓発 <p>【地域・団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校歯科医研修会の実施、保健指導用媒体の作成、歯科健診時に口腔衛生指導の実施 |
| 課題 | <p>感染症拡大等の社会情勢の変化により、フッ素洗口を実施する施設割合が低下したため、今後もむし歯予防への影響について注視していくとともに実施校を早期に回復する必要があります。</p> |

(3) 成人期【妊産婦含む】における歯周病と歯の喪失予防

| 目標項目 | | 目標 | 基準値 H28年度 | R4年度 | 達成状況 | |
|------|----------------------------|------|--------------|-------|-------|---|
| ① | 歯周炎（進行した歯周病）を有する者の割合の減少 | 20歳代 | 30% | 43.0% | 35.8% | B |
| | | 40歳代 | 30% | 43.5% | 49.3% | D |
| ② | 過去1年間に 歯科検診を受診した者の割合の増加 | 20歳代 | 60% | 42.5% | 47.4% | B |
| | | 30歳代 | 60% | 58.8% | 58.1% | C |
| | | 40歳代 | 60% | 50.8% | 58.9% | B |
| | | 50歳代 | 60% | 54.1% | 58.7% | B |
| ③ | 妊産婦歯科健康診査受診率の向上 | 60% | 47.2% | 50.2% | B | |

| | |
|--------|---|
| 現 状 | <ul style="list-style-type: none"> 歯周炎（進行した歯周病）を有する者の割合は、20歳代は改善傾向にあるが、40歳は悪化 過去1年間に歯科検診を受診した者の割合は、30歳代では若干減少したが各年代及び妊産婦は増加 |
| 主な取り組み | <p>【行政】</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業における出前講座や市内大学祭にブースを出展し、歯周病における喫煙や糖尿病などの全身疾患との関連についての正しい知識の普及・啓発を実施 歯周病検診未受診者に対し未受診者勧奨を実施 定期的な歯科検診・歯科保健指導などの受診勧奨を実施 <p>【地域・団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> 妊産婦に対する口腔衛生に関する啓発を実施 医・歯・薬連携による糖尿病重症化予防プログラムのモデル事業実施 |
| 課 題 | <p>歯周病と全身疾患等との関連に関する知識は高まっているが、歯周炎（進行した歯周病）を有する者の割合が40歳で悪化がみられることから、歯科疾患予防とともに早期からの口腔機能保持についてさらなる啓発に取り組む必要性があります。</p> |

(4) 高齢期における歯の喪失防止

| 目標項目 | | 目標 | 基準値 H28年度 | R4年度 | 達成状況 | |
|------|---|-------|--------------|-------|-------|---|
| ① | 歯周炎を有する者の割合の減少 | 60歳 | 45% | 60.5% | 58.6% | C |
| ② | 過去1年間に歯科検診を受診した者の割合の増加 | 60歳代 | 75% | 61.4% | 63.4% | C |
| | | 70歳代 | 75% | 67.9% | 59.7% | D |
| ③ | 80歳で20本以上自分の歯を持つ人の割合の増加 | 80歳 | 50% | 30.6% | 38.4% | B |
| ④ | 口腔機能の低下が肺炎などの原因になることや、口腔機能の低下を防ぐことが介護予防につながることを知っている者の割合の増加 | 60歳以上 | 85% | 76.6% | 75.3% | C |

| | |
|--------|--|
| 現 状 | <ul style="list-style-type: none"> 60歳で歯周炎を有する者の割合は横ばい 年1回の歯科検診を受診した者の割合は、60歳代では若干増加したが、70歳代では悪化 80歳で20本以上自分の歯を持つ人の割合は改善傾向にあるが、口腔機能の低下による弊害について知っている割合は横ばい |
| 主な取り組み | <p>【 行 政 】</p> <ul style="list-style-type: none"> オーラルフレイル予防対策として、リーフレットを作成し事業所や市内歯科医療機関等に配布し啓発を実施 口腔機能の維持など介護予防のため、「シニアのための食とお口の健康講座」や「ほの国体操リーダー養成講座」の中で口腔体操等を実施 76歳を対象に口腔機能評価を含めた後期高齢者歯科健診を開始 <p>【地域・団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> 検診や治療時における歯科保健指導を実施 歯と全身疾患に関する効果的な医療サービスを提供するため、病診連携を実施 |
| 課 題 | <p>口腔機能を低下させないため、定期的な歯科検診受診を推進していく必要があります。また、オーラルフレイルに関する認知度が低いことが懸念されます。</p> |

(1) 障害者(児)・要介護高齢者・在宅療養者 における受診したいときに受診できる環境づくり

| 目標項目 | | 目標 | 基準値 H28年度 | R4年度 | 達成状況 |
|------|---|-----|--------------|-------|------|
| ① | 障害福祉サービス事業所（入所）における定期的な歯科検診実施率の増加 | 80% | 66.7% | 50.0% | D |
| ② | 障害福祉サービス事業所（通所）における定期的な歯科検診実施率の増加 | 70% | 62.5% | 11.8% | D |
| ③ | 介護老人福祉施設における定期的な歯科検診実施率の増加 | 80% | 64.3% | 80.0% | A |
| ④ | 介護老人福祉施設及び介護老人保健施設等で入所者の口腔管理を行っている施設数の割合の増加 | 90% | 78.4% | 97.1% | A |

| | |
|--------|--|
| 現 状 | <ul style="list-style-type: none"> 介護老人福祉施設での定期的な歯科検診実施率、口腔管理を行っている施設数は目標値を達成したが、障害福祉サービス事業所における定期的な歯科検診実施率は悪化 |
| 主な取り組み | <p>【 行 政 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設職員を対象に、口腔ケアや口腔機能維持に関する研修会を実施 <p>【地域・団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療機関を対象に、障害者及び要介護者の検診や治療技術向上を図る研修会を実施 |
| 課 題 | <p>感染症拡大等の社会情勢の変化により、施設においては緊急時の治療・処置以外の実施が困難であり、定期的な歯科検診は中止となりました。今後も引き続き、口腔衛生について格差のない支援対策に努める必要があります。</p> |

(1) 歯科口腔保健に関する知識の普及啓発

| | |
|--------|---|
| 主な取り組み | <ul style="list-style-type: none"> ・ かかりつけ歯科医を持ち、歯と口の健康習慣を継続して行う市民の意識向上を図るため、「歯と口の健康週間」や「いい歯の日」などイベントを通じ啓発を実施 ・ 歯と口の健康づくりに携わる保健・医療従事者などに対して、研修会などを実施することにより、知識や技術の習得・人材の掘り起こしなどを図り、人材確保及び資質向上に努めた ・ 新たな歯科保健事業の開始に伴い、実践マニュアル等説明会を随時開催 |
| 課題 | <p>感染症拡大等の社会情勢の変化により、イベント開催が中止または縮小されるなど十分な啓発が実施出来なかったため、今後は対面での啓発再開やオンラインの有効活用など、啓発の手法や内容の改善に努める必要があります。</p> |

(2) 歯と口の健康づくりに携わる者の支援と資質の向上

| | |
|--------|---|
| 主な取り組み | <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯と口の健康づくりに携わる保健・医療従事者を対象に、知識や技術の習得を図るため、口腔保健支援センター研修会を開催 ・ 新たな歯科保健事業の開始に伴い、実践マニュアル等説明会を随時開催 |
| 課題 | <p>感染症拡大等の社会情勢の変化により、研修会が中止または縮小されるなど十分な支援が実施出来なかったため、今後は対面での再開やオンラインの有効活用など、研修会の手法や内容の改善に努める必要があります。</p> <p>また、歯科医師の高齢化、歯科衛生士等従事者の人的資源不足のため、訪問診療の実施が困難となることが懸念されていることから、さらなる人材確保及び資質向上に努める必要があります。</p> |

(3) 災害時の歯科口腔保健対策

| | |
|--------|---|
| 主な取り組み | <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民向けに配布している”防災ガイドブック”に、非常持出しとして口腔衛生用品（歯みがき用具等）を掲載し広報を実施 ・ 避難所生活でも健康を維持できるよう、口腔ケア等の実施について避難所運営マニュアルに記載し、防災訓練を実施 |
| 課題 | <p>南海トラフ地震など大規模な災害に備えるため、平常時から実施している取り組みを継続するとともに、医療関係者や関係団体との密接な連携、情報共有、いわゆる“顔の見える関係”構築に努める必要があります。</p> |